

四 半 期 報 告 書

第73期第1四半期

2023年4月1日から
2023年6月30日まで

スガイ化学工業株式会社

(E00906)

目 次

頁

表紙

第一部 企業情報	1
第1 企業の概況	1
1 主要な経営指標等の推移	1
2 事業の内容	1
第2 事業の状況	2
1 事業等のリスク	2
2 経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析	2
3 経営上の重要な契約等	3
第3 提出会社の状況	4
1 株式等の状況	4
2 役員の状況	5
第4 経理の状況	6
1 四半期財務諸表	7
(1) 四半期貸借対照表	7
(2) 四半期損益計算書	9
2 その他	11
第二部 提出会社の保証会社等の情報	12

[四半期レビュー報告書]

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	近畿財務局長
【提出日】	2023年8月10日
【四半期会計期間】	第73期第1四半期（自 2023年4月1日 至 2023年6月30日）
【会社名】	スガイ化学工業株式会社
【英訳名】	SUGAI CHEMICAL INDUSTRY CO., LTD.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 野間 修
【本店の所在の場所】	和歌山県和歌山市宇須四丁目4番6号
【電話番号】	和歌山 073（422）1171（代表）
【事務連絡者氏名】	執行役員 経理部担当 井田 泰敬
【最寄りの連絡場所】	和歌山県和歌山市宇須四丁目4番6号
【電話番号】	和歌山 073（422）1171（代表）
【事務連絡者氏名】	執行役員 経理部担当 井田 泰敬
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 （東京都中央区日本橋兜町2番1号）

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

回次	第72期 第1四半期 累計期間	第73期 第1四半期 累計期間	第72期
会計期間	自 2022年4月1日 至 2022年6月30日	自 2023年4月1日 至 2023年6月30日	自 2022年4月1日 至 2023年3月31日
売上高 (千円)	1,472,681	1,712,602	7,059,466
経常利益 (千円)	119,243	295,894	749,499
四半期(当期)純利益 (千円)	90,768	197,701	578,931
持分法を適用した場合の 投資利益 (千円)	—	—	—
資本金 (千円)	2,510,000	2,510,000	2,510,000
発行済株式総数 (千株)	1,373	1,373	1,373
純資産額 (千円)	6,225,881	6,885,562	6,720,471
総資産額 (千円)	10,631,077	11,536,146	11,286,945
1株当たり四半期(当期)純 利益 (円)	69.05	151.32	442.26
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益 (円)	—	—	—
1株当たり配当額 (円)	—	—	45.00
自己資本比率 (%)	58.6	59.7	59.5

(注) 1 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりませんので、連結会計年度に係る主要な経営指標等の推移については、記載しておりません。

2 持分法を適用した場合の投資利益については、関連会社がないため記載しておりません。

3 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2【事業の内容】

当第1四半期累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)において営まれている事業の内容に重要な変更はありません。

また、関係会社についても異動はありません。

第2【事業の状況】

1【事業等のリスク】

当第1四半期累計期間において、新たな事業等のリスクの発生、または、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについて重要な変更はありません。

2【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

(1) 財政状態及び経営成績の状況

(財政状態の分析)

当第1四半期会計期間末の総資産は、前事業年度末に比べ249百万円増加の11,536百万円となりました。これは主に、受取手形及び売掛金は171百万円減少しましたが、仕掛品が173百万円、商品及び製品が70百万円、原料及び貯蔵品が68百万円それぞれ増加したこと等によるものです。

負債につきましては、前事業年度末に比べ84百万円増加の4,650百万円となりました。これは主に、支払手形及び買掛金は180百万円減少しましたが、借入金が270百万円増加したことによるものです。

また、純資産は前事業年度末に比べ165百万円増加の6,885百万円となり、自己資本比率は59.7%（前事業年度末59.5%）となりました。

(経営成績の分析)

当第1四半期累計期間におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症の感染症法上の分類が第5類へ引き下げられ、各種規制の緩和により緩やかな回復の動きが見られました。しかしながら、長期化するウクライナ情勢などの影響を受けた食料・エネルギー等の供給問題や価格高騰、為替の円安に加え、海外景気の下振れがわが国の景気を下押しする不安要素となっています。

このような状況の中で、国内売上高は、1,530百万円と前年同期（1,427百万円）に比べ、103百万円（7.2%）の増収となりました。これは、医薬用中間物及び界面活性剤が減少したものの、農薬用中間物及び機能性用中間物が増加したためです。

輸出売上高は、182百万円と前年同期（45百万円）に比べ、136百万円（301.4%）の大幅な増収となりました。これは、医薬用中間物が大幅に増加したためです。

この結果、総売上高は1,712百万円となり、前年同期（1,472百万円）に比べ239百万円（16.3%）の増収となりました。また、輸出比率は10.6%（前年同期 3.1%）となりました。

利益につきましては、固定費の増加や原材料価格の上昇等はありませんでしたが、売上高の増収、棚卸資産の増加等により、営業利益は251百万円（前年同期 76百万円）となりました。営業外収益では、受取配当金26百万円等もあり、経常利益は295百万円（前年同期 119百万円）、四半期純利益は197百万円（前年同期 90百万円）となりました。

(2) 優先的に対処すべき事業上及び財務上の課題

当第1四半期累計期間において、優先的に対処すべき事業上及び財務上の課題については、重要な変更及び新たに生じた課題はありません。

(3) 研究開発活動

当第1四半期累計期間における研究開発費の総額は57百万円です。なお、研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

(4) 生産及び販売の実績

当第1四半期累計期間における、生産及び販売実績は、下記のとおりであります。

なお、当社の事業は、有機化学合成に基づく中間物の製造、販売、研究及びサービス等を行う単一セグメントであるため、セグメント情報を記載しておりませんので、「生産及び販売の実績」については製品の種類別ごとに記載しております。

① 生産実績

区分	生産高（千円）		前年同四半期比（%）
	前第1四半期累計期間	当第1四半期累計期間	
医薬用中間物	248,011	120,219	△51.5
農薬用中間物	819,147	1,166,063	+42.4
機能性用中間物	67,174	86,548	+28.8
その他用中間物	5,982	0	△100.0
界面活性剤	95,512	104,300	+9.2
合計	1,235,828	1,477,133	+19.5

② 販売実績

区分	販売高（千円）		前年同四半期比（%）
	前第1四半期累計期間	当第1四半期累計期間	
医薬用中間物	87,656	195,230	+122.7
農薬用中間物	1,137,429	1,221,567	+7.4
機能性用中間物	113,357	173,145	+52.7
その他用中間物	21,778	18,634	△14.4
界面活性剤	111,156	95,875	△13.7
その他	1,303	8,149	+525.2
合計	1,472,681	1,712,602	+16.3

(注) 主な輸出先、輸出販売高の増減は、次のとおりであります。

輸出先	輸出販売高（千円）		前年同四半期比（%）
	前第1四半期累計期間	当第1四半期累計期間	
北米	18,904	21,135	+11.8
欧州	22,910	158,440	+591.6
アジア他	3,596	2,720	△24.4
合計	45,410	182,295	+301.4

3 【経営上の重要な契約等】

当第1四半期会計期間において、新たに決定または締結した経営上の重要な契約等はありません。

第3【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

①【株式の総数】

種類	発行可能株式総数 (株)
普通株式	4,000,000
計	4,000,000

②【発行済株式】

種類	第1四半期会計期間末 現在発行数 (株) (2023年6月30日)	提出日現在発行数 (株) (2023年8月10日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	1,373,000	1,373,000	東京証券取引所 スタンダード市場	単元株式数 100株
計	1,373,000	1,373,000	—	—

(2)【新株予約権等の状況】

①【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

②【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式総 数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
2023年4月1日～ 2023年6月30日	—	1,373,000	—	2,510,000	—	2,016,543

(5)【大株主の状況】

当四半期会計期間は第1四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(6) 【議決権の状況】

当第1四半期会計期間末日現在の議決権の状況については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができませんので、直前の基準日である2023年3月31日の株主名簿により記載しております。

① 【発行済株式】

2023年6月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	—	—	—
議決権制限株式(自己株式等)	—	—	—
議決権制限株式(その他)	—	—	—
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 66,400	—	単元株式数 100株
完全議決権株式(その他)	普通株式 1,301,600	13,016	同上
単元未満株式	普通株式 5,000	—	1単元(100株)未満の株式
発行済株式総数	1,373,000	—	—
総株主の議決権	—	13,016	—

② 【自己株式等】

2023年6月30日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有株式数(株)	他人名義所有株式数(株)	所有株式数の合計(株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割合(%)
(自己保有株式) スガイ化学工業株式会社	和歌山県和歌山市宇須 四丁目4番6号	66,400	—	66,400	4.84
計	—	66,400	—	66,400	4.84

(注) 当第1四半期会計期間末の自己株式数は66,500株であります。

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4【経理の状況】

1 四半期財務諸表の作成方法について

当社の四半期財務諸表は、「四半期財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第63号）に基づいて作成しております。

2 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第1四半期会計期間（2023年4月1日から2023年6月30日まで）及び第1四半期累計期間（2023年4月1日から2023年6月30日まで）に係る四半期財務諸表について、有限責任 あずさ監査法人による四半期レビューを受けております。

3 四半期連結財務諸表について

「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）第5条第2項により、当社では、子会社の資産、売上高、損益、利益剰余金及びキャッシュ・フローその他の項目からみて、当企業集団の財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況に関する合理的な判断を妨げない程度に重要性が乏しいものとして、四半期連結財務諸表は作成しておりません。

なお、資産基準、売上高基準、利益基準及び利益剰余金基準による割合は次のとおりであります。

- | | |
|-----------|------|
| ① 資産基準 | 0.5% |
| ② 売上高基準 | 0.4% |
| ③ 利益基準 | 0.8% |
| ④ 利益剰余金基準 | 1.1% |

1 【四半期財務諸表】

(1) 【四半期貸借対照表】

(単位：千円)

	前事業年度 (2023年3月31日)	当第1四半期会計期間 (2023年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	431,076	487,280
受取手形及び売掛金	2,257,016	2,085,858
商品及び製品	1,834,051	1,904,907
仕掛品	198,660	372,332
原材料及び貯蔵品	738,684	807,033
その他	35,335	21,942
貸倒引当金	△6,835	△6,284
流動資産合計	5,487,988	5,673,069
固定資産		
有形固定資産		
建物（純額）	662,265	681,399
機械及び装置（純額）	1,295,904	1,288,561
土地	1,328,624	1,328,624
その他（純額）	619,279	612,920
有形固定資産合計	3,906,074	3,911,505
投資その他の資産		
投資有価証券	1,823,713	1,877,801
関係会社株式	3,819	3,819
その他	79,512	84,113
貸倒引当金	△14,163	△14,163
投資その他の資産合計	1,892,881	1,951,571
固定資産合計	5,798,956	5,863,076
資産合計	11,286,945	11,536,146
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	1,163,030	982,574
短期借入金	600,000	1,000,000
1年内返済予定の長期借入金	480,192	446,870
未払法人税等	125,549	73,771
未払費用	376,454	462,021
賞与引当金	99,145	45,209
その他	294,864	304,782
流動負債合計	3,139,236	3,315,228
固定負債		
長期借入金	841,685	745,019
退職給付引当金	414,231	413,519
その他	171,320	176,816
固定負債合計	1,427,237	1,335,354
負債合計	4,566,473	4,650,583

(単位：千円)

	前事業年度 (2023年3月31日)	当第1四半期会計期間 (2023年6月30日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,510,000	2,510,000
資本剰余金	2,016,543	2,016,543
利益剰余金	1,770,144	1,909,052
自己株式	△105,422	△105,517
株主資本合計	6,191,265	6,330,078
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	529,205	578,132
繰延ヘッジ損益	—	△22,647
評価・換算差額等合計	529,205	555,484
純資産合計	6,720,471	6,885,562
負債純資産合計	11,286,945	11,536,146

(2) 【四半期損益計算書】

【第1四半期累計期間】

(単位：千円)

	前第1四半期累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年6月30日)	当第1四半期累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年6月30日)
売上高	1,472,681	1,712,602
売上原価	1,194,107	1,244,000
売上総利益	278,574	468,602
販売費及び一般管理費		
発送運賃	7,927	5,539
従業員給料及び手当	75,820	83,613
賞与引当金繰入額	10,747	9,871
退職給付費用	4,350	4,524
その他	103,012	114,046
販売費及び一般管理費合計	201,857	217,596
営業利益	76,716	251,006
営業外収益		
受取配当金	26,950	26,777
為替差益	11,134	18,545
サンプル売却益	2,140	2,855
受託研究収入	7,600	—
その他	3,402	1,300
営業外収益合計	51,227	49,477
営業外費用		
支払利息	2,966	3,149
休止固定資産維持費用	4,143	—
その他	1,590	1,440
営業外費用合計	8,700	4,589
経常利益	119,243	295,894
特別損失		
固定資産除却損	253	7,564
特別損失合計	253	7,564
税引前四半期純利益	118,990	288,329
法人税、住民税及び事業税	16,982	80,183
法人税等調整額	11,240	10,444
法人税等合計	28,222	90,627
四半期純利益	90,768	197,701

【注記事項】

(追加情報)

(表示方法の変更)

(四半期損益計算書関係)

前第1四半期累計期間の「営業外収益」において「サンプル売却益」として分類していたものを、より精緻な分類とするため、前第3四半期累計期間より組み替えを行っております。

当社の独自の製品のサンプルを売却して得た収益については「サンプル売却益」とし、顧客からの依頼で行った受託研究から得た収入については「受託研究収入」としております。

この結果、前第1四半期累計期間の損益計算書において、「営業外収益」に表示していた「サンプル売却益」10,398千円は、「サンプル売却益」2,140千円、「受託研究収入」7,600千円、「その他」658千円として組み替えております。

(四半期貸借対照表関係)

偶発債務

(重要な訴訟事件)

当社は、元従業員遺族より2022年11月4日付で、福井地方裁判所に労働審判を申立てられました（労働審判を求める事項の価額 103,903千円及びこれに対する遅延損害金）。

2023年3月14日、80,000千円の範囲で請求を認容する労働審判が下されましたが、同月16日当社が異議を申立てたことにより失効し、福井地方裁判所での通常訴訟に移行し、係争中です。訴訟の推移によっては、今後の業績に影響を及ぼす可能性もありますが、現時点ではその影響を予測することは困難であります。

(四半期キャッシュ・フロー計算書関係)

当第1四半期累計期間に係る四半期キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第1四半期累計期間に係る減価償却費（無形固定資産に係る償却費を含む。）の償却額は、次のとおりであります。

	前第1四半期累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年6月30日)	当第1四半期累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年6月30日)
減価償却費	110,754千円	114,334千円

(株主資本等関係)

I 前第1四半期累計期間（自 2022年4月1日 至 2022年6月30日）

配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2022年6月22日 定時株主総会	普通株式	46,545	35	2022年3月31日	2022年6月23日	利益剰余金

II 当第1四半期累計期間（自 2023年4月1日 至 2023年6月30日）

配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2023年6月22日 定時株主総会	普通株式	58,793	45	2023年3月31日	2023年6月23日	利益剰余金

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第1四半期累計期間（自 2022年4月1日 至 2022年6月30日）及び当第1四半期累計期間（自 2023年4月1日 至 2023年6月30日）

当社の事業は、有機化学合成に基づく中間物の製造、販売、研究及びサービス等を行う単一セグメントであるため、記載を省略しております。

(収益認識関係)

顧客との契約から生じる収益を分解した情報

(単位：千円)

	前第1四半期累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年6月30日)	当第1四半期累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年6月30日)
医薬用中間物	87,656	195,230
農薬用中間物	1,137,429	1,221,567
機能性用中間物	113,357	173,145
その他用中間物	21,778	18,634
界面活性剤	111,156	95,875
その他	1,303	8,149
顧客との契約から生じる収益	1,472,681	1,712,602
その他の収益	—	—
外部顧客への売上高	1,472,681	1,712,602

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第1四半期累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年6月30日)	当第1四半期累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年6月30日)
1株当たり四半期純利益 (円)	69.05	151.32
(算定上の基礎)		
四半期純利益 (千円)	90,768	197,701
普通株主に帰属しない金額 (千円)	—	—
普通株式に係る四半期純利益 (千円)	90,768	197,701
普通株式の期中平均株式数 (千株)	1,314	1,306

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2【その他】

該当事項はありません。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

2023年8月9日

スガイ化学工業株式会社

取締役会 御中

有限責任 あずさ監査法人

大阪事務所

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 神田 正史

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 長谷川 卓也

監査人の結論

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられているスガイ化学工業株式会社の2023年4月1日から2024年3月31日までの第73期事業年度の第1四半期会計期間（2023年4月1日から2023年6月30日まで）及び第1四半期累計期間（2023年4月1日から2023年6月30日まで）に係る四半期財務諸表、すなわち、四半期貸借対照表、四半期損益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表の作成基準に準拠して、スガイ化学工業株式会社の2023年6月30日現在の財政状態及び同日をもって終了する第1四半期累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項が全ての重要な点において認められなかった。

監査人の結論の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。四半期レビューの基準における当監査法人の責任は、「四半期財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

四半期財務諸表に対する経営者及び監査等委員会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表の作成基準に準拠して四半期財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

四半期財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき四半期財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表の作成基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査等委員会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

四半期財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した四半期レビューに基づいて、四半期レビュー報告書において独立の立場から四半期財務諸表に対する結論を表明することにある。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に従って、四半期レビューの過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

・主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対する質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続を実施する。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

- ・継続企業の前提に関する事項について、重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められると判断した場合には、入手した証拠に基づき、四半期財務諸表において、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表の作成基準に準拠して、適正に表示されていないと信じさせる事項が認められないかどうか結論付ける。また、継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、四半期レビュー報告書において四半期財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する四半期財務諸表の注記事項が適切でない場合は、四半期財務諸表に対して限定付結論又は否定的結論を表明することが求められている。監査人の結論は、四半期レビュー報告書日までに入手した証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・四半期財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表の作成基準に準拠していないと信じさせる事項が認められないかどうかとともに、関連する注記事項を含めた四半期財務諸表の表示、構成及び内容、並びに四半期財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示していないと信じさせる事項が認められないかどうかを評価する。

監査人は、監査等委員会に対して、計画した四半期レビューの範囲とその実施時期、四半期レビュー上の重要な発見事項について報告を行う。

監査人は、監査等委員会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去するための対応策を講じている場合又は阻害要因を許容可能な水準にまで軽減するためのセーフガードを適用している場合はその内容について報告を行う。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

-
- (注) 1 上記の四半期レビュー報告書の原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。
2 XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていません。